

令和7年度 橋戸小学校 学校評価アンケート 結果報告

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。集計結果と考察をお示します。児童にとってより良い学校になるよう、今後の教育活動に生かしてまいります。ご協力ありがとうございました。

評価項目と結果及び考察	
★	<p>楽しく学校生活をおくっている</p> <p> 教員: 約75% (とてもそう思う) + 約25% (そう思う) 保護者: 約40% (とてもそう思う) + 約60% (そう思う) 児童: 約45% (とてもそう思う) + 約55% (そう思う) </p> <p> 教員は、学校は児童にとって楽しい場所であるようお願い、様々な工夫を試みているが、保護者・児童に成果を実感させることができず、認識の差が見られます。児童や保護者の声に耳を傾け、不安要素に寄り添い、取組成果を実感していただくよう働きかけてまいります。 </p>
①	<p>子供にとって分かりやすい授業づくりを進めている</p> <p> 教員: 約35% (とてもそう思う) + 約65% (そう思う) 保護者: 約25% (とてもそう思う) + 約75% (そう思う) 児童: 約40% (とてもそう思う) + 約60% (そう思う) </p> <p> 児童の回答で学習理解に不安を抱えている割合が高いのが気になります。効果的な個別最適な学びを実現し、個々の課題に添った指導方法の共有や、互いの授業参観を通してより良い指導の在り方を研修する場を確保していきます。 </p>
②	<p>子供の主体性を重んじ、話し合いや学び合いを取り入れた授業づくりをすすめている</p> <p> 教員: 約15% (とてもそう思う) + 約85% (そう思う) 保護者: 約25% (とてもそう思う) + 約75% (そう思う) 児童: 約60% (とてもそう思う) + 約40% (そう思う) </p> <p> 児童は対話を通じた学びの充実感を味わっているようです。一方、教員や保護者は、話し合い活動による学習内容の深まりや効果に疑問を抱いています。目的意識をもった話し合いの充実が図れるよう、ねらいを吟味し、ゴールを明確にしたコミュニケーション活動の構築に努めてまいります。 </p>
③	<p>基礎的・基本的な学習内容をきちんと指導している</p> <p> 教員: 約40% (とてもそう思う) + 約60% (そう思う) 保護者: 約25% (とてもそう思う) + 約75% (そう思う) 児童: 約40% (とてもそう思う) + 約60% (そう思う) </p> <p> 朝の帯の時間を学習時間として確保しているものの、保護者・児童には確かな学力の向上や成果としての実感が伴っていないようです。時間枠の保証のみならず、活動内容を精査し、活動の成果が実感できるよう、系統性も意識した取組になるよう工夫を加えていきます。 </p>
④	<p>自分の意見や考えを伝えている</p> <p> 教員: 約20% (とてもそう思う) + 約80% (そう思う) 保護者: 約25% (とてもそう思う) + 約75% (そう思う) 児童: 約35% (とてもそう思う) + 約65% (そう思う) </p> <p> 数値に表れていませんが、自分の考えを相手に伝えようとする児童の意識の高さを感じられます。教員側も学習活動の中で児童の意見表出を促す指導場面を工夫することで、より意識が向上すると考えています。きまりに縛られた学校生活でなく、自ら工夫し発展させることができる余地を残し、より楽しい生活を目指す姿勢が児童に備わるような活動や機会をつくっていきます。 </p>
⑤	<p>困った時に、相談したり、自分で解決しようとしていたりしている</p> <p> 教員: 約25% (とてもそう思う) + 約75% (そう思う) 保護者: 約25% (とてもそう思う) + 約75% (そう思う) 児童: 約35% (とてもそう思う) + 約65% (そう思う) </p> <p> 数値上、大人の見立て以上に児童は困ったことや悩みを自力解決している意識が高いことから、思いを表出しやすい環境づくりができています。若干ですが、自力解決に不安をもつ児童がいることから、気持ちに寄り添い、悩みや不安を受け入れる姿勢を示し、支援要請ができる場を提供することの共通理解を図っていきます。 </p>

⑥	<p>学校は困った時に相談しやすい</p> <p>0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 ■とてもそう思う ■そう思う □そう思わない □とても思わない</p>	<p>教員・児童相互で、受容し受容されている安心感をもって、いることがうかがえます。一方、保護者に対して学校の包摂姿勢が伝わっていないことが課題です。学校側が、保護者の声に耳を傾け、困り感に寄り添う姿勢や準備があることを周知し、支援要請をしやすい人的・物的環境の情報提供を様々な形で提供します。</p>
⑦	<p>子供は体を動かすことを楽しんでいる</p> <p>0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 ■とてもそう思う ■そう思う □そう思わない □とても思わない</p>	<p>休み時間の外遊びを心待ちにしている児童が多い実情から、大人は児童がすすんで運動に親しんでいる様子を肯定的に捉えています。学校の取組として、寒冷期に持久走や縄跳びなどを取り上げ、集中的な取組を行っていますが、今後は常時活動としての体づくりにつながる活動を、可能な限り児童発信で企画するなどして取組意識を高めます。</p>
⑧	<p>子供は規則正しい生活をしている</p> <p>0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 ■とてもそう思う ■そう思う □そう思わない □とても思わない</p>	<p>保護者・児童ともに生活習慣への意識は高めです。しかし、教員側は意図的・積極的な指導を行っている自覚が低いです。教科指導と生活習慣の関連付けを意識した指導を行うことで、児童の生活習慣に対する見方・考え方を深め、自ら改善することに意識が向くよう働きかけてまいります。</p>
⑨	<p>地域・外部ボランティア連携した学習を取り入れている</p> <p>0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 ■とてもそう思う ■そう思う □そう思わない □とても思わない</p>	<p>出前授業や校外学習等で、地域や保護者の協力を得て教育活動を展開しています。教員も様々な機関や個人と折衝し計画を立てています。しかし、児童には外部の方との学びによる成果が実感できていないようです。学校支援コーディネーターによる地域協力者との連携を進め、児童には学習場面における協力者への感謝の気持ちがもてるよう、主体的な関わりを促します。</p>
⑩	<p>異学年交流や保育園・幼稚園・他校種との交流学習に取り組んでいる</p> <p>0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 ■とてもそう思う ■そう思う □そう思わない □とても思わない</p>	<p>練馬区の重点施策として取り上げる幼保小連携を受け、「遊びや生活からの学び」と「教科学習からの学び」の円滑な連続性を意識します。同様に小中の相互理解を深め、環境の変化への不安を和らげます。</p>
⑪	<p>電子黒板やタブレット端末を活用し、子供の学習意欲を高めている</p> <p>0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 ■とてもそう思う ■そう思う □そう思わない □とても思わない</p>	<p>ICT機器の活用は児童に受け入れられやすい半面、学習端末としての効果を公正に判断しているとは言い切れません。大人の見方では、学習意欲を高めることには肯定的でも、有効活用の視点では慎重さが伺えます。学習効果を高めるべく、各教科の特性を考慮しつつ、研修の実施と実践報告会等を通じた、教員全体の利活用能力の向上を目指します。</p>